あきれた馬鹿騒ぎ

"皇太子の結婚"でアンケート

皇太子と美智子さんの結婚式は四月十日、政府が音頭をとつたランチキ騒ぎのうちに、幕をおろした。結婚費用しめて三億円、いやはや、私たちの給料袋と比較すると、まさに天文学的な数字である。愛し合いながらも、経済的な理由で結婚式さえあげられない若い仲間たちが、私たちの周囲には何と多いことだろう。この気違い染みた結婚が何を意味するのか私たちは冷静に見きわめなければならない。タガを外したこの結婚さわぎを私たちの若い仲間たちはどううけとつたか編集部では馬鹿騒ぎの結婚ブームのなかでアンケートを集録してみた。

トンダ大芝居ヨ

勇敢な青年　三作　M　子

二人の結婚式の日、旗行列、提灯行列、花火などお祭り以上の大騒ぎだつた。テレビやラジオではまる一日中私たちの気持とは反対に、さも国民全体が喜び祝つているかのように報じられる。私たちの周囲ではお年寄が感げきの涙をさえこぼしている。あるおばさんは、行列の馬車に二人がのるとき皇太子が美智子さんの眼のスソをなおしてやつたということを、ひどくおこつていた。"おち着な女だ"といつて——。私は笑いがとまらなかつた。世間では当り前のことなのに……。

でも、一般的に女の人たちは、自分たちと同じ民間人の女性が、皇太子妃になれたということで、社会が新しく変わつたと思つているのではないだろうか。

私は世の中が一歩進んだとは思えない。皇室と独占資本との関係独占資本と政府との関係を思うと二人の結婚をただ美しいなどとはいつていられない気がする。そこには私たちのよくわからないオソロしいワナが仕かけられているような気がしてならない。

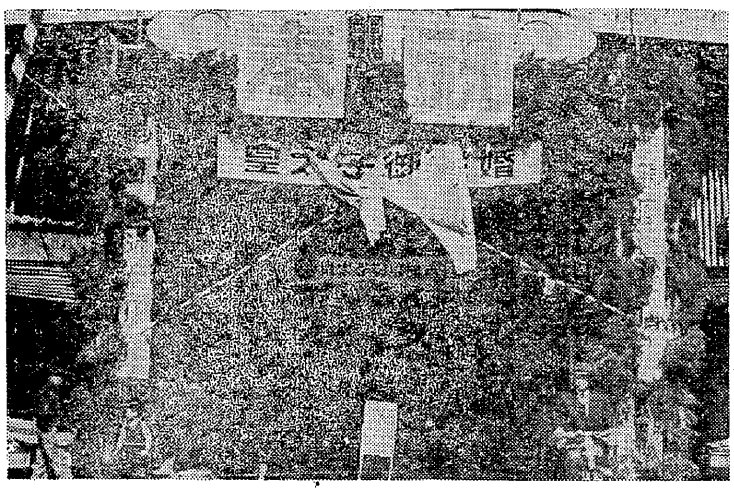
行列がすすむうちに、皇室反対を叫ぶ十九才の青年が、馬車にとびのろうとしたそうだけど"ウワーよくやつた!、すごい勇気だな"と思わず手をたたいてしまつた。

討論を起そう　三川　田島　修三

"世界最大のショウ"とマス・コミ総動員で盛上げられた成婚ブームも、十日の結婚の儀でそのふんい気が頂点に達した。"若きプリンスの恋"で飾り立てられた暗幕の陰では、実利と政治的たくらみの大芝居が、演じられていることを見落してはならぬと思う。

働くものの目前では安保条約の改悪、日本核武装の進行という冷酷な現実が、主権在民の平和憲法をふみにじる岸政府、即ち"スター皇太子"最大のスポンサーによつて進展しつつある。

皇室の私事を国の行事として扱い、国民大多数の祭日であるメーデーは国祝日にせず、憲法上は一個人にすぎぬ青年の結婚を国事として、勝手な政令で選挙目当ての「恩赦」をはかるような岸政府が何をねらつての成婚ブームであるかは明白である。



奉祝一色に塗りつぶされた商店街(松屋前銀座通りで)

おめでたい、おめでたいと奉祝気分をあおつているが、「象徴」の後継者にすぎない皇太子の結婚がおめでたいのならば、真実の主権者たるわれわれ働く青年の結婚は、それよりはるかに、いつそうおめでたいこととして国家からお祝いをもらわなくてはならぬはずである。ところが、全逓労組で六年間にわたつて「結婚資金一人三万円支給」を要求してきたが、政府はケンもホロロにつつぱねている。

労働者階級であるわれわれにとつては、皇太子結婚問題を「ええじゃないか、ええじゃないか」と素通りするのでなく、天皇制・君主制の問題として明確な方針をだすために、少くとも思想的準備のための討論を起し、主権者であるわれわれの豊かな家庭と、幸福な結婚にたいする当然の要求を、こんどのように発展させ、組織するか真剣にかんがえねばならぬと思う。

目を見開こう　港務　宮本　泰子

ある喫茶店でテレビを見ていたら、美智子さんが母校を訪れる場面があつた。終始ニコニコと、場面が変るまでその表情は変らなかつた。とりよせたものを食べながら、私はふと美智子さんの悲劇はもう始まつているんじやないかと思つた。つくられた笑顔、おそらく、彼女の一生にその笑顔は、想像もできないほどの負担となつて覆いかぶさつてくるに違いない。それは、彼女が昔流の貴族でなかつたことにもよるが、やつぱり一番大きな出発点は、どんなにひいき目にかんがえてみても、彼女が自分自身の真実の生活を選んだとは思えないからだ。

お嫁入りの道具だけでも数百万円と聞いたけれど、そのバク大な品物の中のいつたいどれだけが直接彼女の眼に触れ、手にとられているだろうか。私など、お嫁にもつてゆくものは、靴下にいたるまですべて予算の中を出たり入つたりする。

同性で、しかも同じ世代の私にとつて、彼女と皇太子の結びつきを若者としては拍手を送りたい。ここまでは抵抗なく素直に受け入れることができる。

でも、あのバク大な費用をかけた彼らの住い、そしてジャーナリズムの度をこした報道、また許すことのできない選挙違反の恩赦、商売人を中心とした馬鹿げたお祭り騒ぎ、などを甘んじて受け入れているのかに見えた、あの人の好さそうな二人の笑顔をながめていると、あえて平民を選ばれたというその勇気も、また自治会長であつたという美智子さんの前歴も、何かとうえどころのない空虚な響きをもつてくる。目を閉じると何も積んでいない黄風の車が、ただいつまでも空まわりしている。

つまずくといけないから大きく目を見開こう。

労働歌の歌える人を　藤木　光男

現在の日本でもつとも人気のあるのは岸信介ではなく、正田美智子さんだと思う。

この一票で平和を

知事県議選挙戦火ブタ切る

県知事告示の三月二十九日、つづいて県会議員の告示四月八日をむかえ、いよいよ選挙戦の火ぶたは切つておとされた。

一声の後をうけ満を持して待期していたわれらの代表浦川候補(福岡)、酒井候補(熊本)の両氏は一斉に街頭に進出して堂々のコマをすすめて選挙戦に突入した。

戦争の恐怖は日ましに高まつてきている。この一票が私たちに平和と戦争のどちらかの道へ導くことになるのだ。いまこそ、私たちは平和で働くものの世の中を一日もはやく実現させるため、職場や地域からひろく市民や農民への働きかけを起こさなければならない。

四月十日の結婚式は、皇太子と美智子さんが世紀の恋を結んだ日であることは、皆んなが知つている。美智子さんは頭もよくて、美しく、しとやかで、未来の皇后にふさわしい人であると思うが、しかし、形式ばつた結婚式のやり方に、いささかの疑問があると思う正田英三郎氏は、日本でも指おりの大きな日清製粉会社の社長であるがいくら社長でも、美智子さんのために使う結婚費用が、正田家のみで一億円、宝石類が六千万円とバク大な大金を使い、子のために社長をやめるという馬鹿げた話しもある。こんなことは皇太子と美智子さんがたどつてきた、型やぶりの新しい結婚式にふさわしくない国民のなかには、これが皇太子と民間人の新しい結婚式かと疑問をもつ人々が多分にある。

皇太子もせつかく民間人と結婚するなら、お金の価値を十分しつた労働歌の一つも歌えるような、働く人々の中から選んで結婚するなら、もつともつと新しい結婚式になつていただろう。

庶民!とんでもない　K子(十九才)

世はまさに結婚ブームと銘うつて賑わつている。皇太子殿下にあやかつてのブームに違いない。しかし、私達はこの喜び?を手ばなしで喜こんでよいだろうか。妃殿下である美智子さんは、貴族でも皇族でもなかつた。いわゆる庶民であつたにすぎない。けれども国民の生きる権利をうばおうとしている。

異彩をはなつた少年の抵抗。

二重橋から出て祝田町方面に向う皇太子ご夫妻の馬車に投石、さらにかけ寄つて乗込もうとした少年。

戦争への行列(皇太子の結婚)

宮浦　上田　義光

高校時代に学校が焼け七百五十人の生徒を収容するための学校建設が四千万円もかかつた。東宮御所は二人だけのために二億三千万円もかかつているという話を聞き、天皇制はあつてはならないと思つた。

「天皇制には反対だ。石が当らなかつたので二人を馬車からひきずりおろすつもりだつた」と調べにたいして少年の言葉。

マスコミを動員しての大がかりな宣伝が、この少年一人だけでなく、もつとたくさんの人たちの心にも「抵抗」をつくつていた。テレビやラジオの前にあつまつたたくさんの人たちの「心」は、近所のむすめさんの嫁入りの噂話をみたがる、そんな素朴な「心」もあつただろう。

その素朴な「心」と「抵抗」を明日の歴史をつくるエネルギーにたかめたいものだ。

私の日記

四月十日　金曜　晴

戦争への行列

おぼりの石ガキ、松の緑、芽をふいたばかりの木々。雨上りの皇居正面から二重橋を渡つて皇太子ご夫妻の馬車は、軽やかに群衆の前に走り出た日米安全保障条約改訂の煙幕。

税金の乱費

先頭に金ピカ儀礼服の警視庁騎馬巡査二騎。カツカツと玉砂利をけつて通りすぎる。ちよつと間をおいて、馬車行列の本隊十六騎。このとき二重橋のたもとから二千羽のハトが青空に放たれた。

失業と貧乏に苦しむ民衆がいる日本の真昼のできごと、皇室の私事を国家の行事として国民に祝わせる憲法違反。

つくりたてられた、ばかばかしい大さわぎ、

潮のさしてくるような、群衆数万の歓声はすざましい。オープン馬車のお二人はいかにも小さくてかれんなお姿だ。右側に皇太子さま、左側に新妃殿下。

象徴という名の偶像と粉屋のむすめ。

階級をこえた「精神」のよりどころはないはず。

「民主的だ」というベールにつつまれた天皇制の復活。

皇太子結婚に支配された今日もいつものように

鉱夫は麦をつくり

農夫は石炭をほつていた。

(情景描写の部分は、朝日・毎日新聞「四月十一日付」から)

【お知らせ】

本号からあたらしく「私の日記」欄をもうけました。

働く者のよろこびや悲しみ、なやみなど生活の実感を語りあう場として活用してください。一二〇〇字程度で日記体にまとめて投稿してくださるようおねがいいたします。スペースの範囲で一日分でも数日分をまとめたものでも結構です。

編集部

庶民というゴマ化し

宮浦　田島　宏康

四月十日はどこを見ても浮かれていた。テレビの前は黒山の人だかり、新聞は皇太子結婚の記事と写真ばかりで、他に何も読むところはありませんでした。

戦後、独占資本が天皇制権力と交替しましたが、支配体制を固めるためには、金力と弾圧だけでは駄目だから、精神的な支柱をと旧支配者をもち出したまでの話で、天皇では軍国臭プンプンだから、若い世代にも親しみ易い皇太子をかつぎ出し、国家の基本的な対立である独占資本と労働者階級の問題を庶民という言葉でゴマかし、あたかも炭鉱労働者の娘と皇太子が結婚でもするように宣伝し、民主化という言葉で私たちをゴマかそうとしました。

これだけならまだいいんですが、ブームで私たちを浮かれさせといて、岸政府は国を破滅に追い込もうと安保条約を改定し、アメリカの目下として公然と軍事体制に組み込む仕事をなしとげようとするのですから恐しいものです。

しかも、憲法違反を犯して天皇家の私事を国事に乗し上がらせ、四月十日を休日にしてしまい、そこからいろいろな強制を始めました。

憲法を擁護しなければならない人々の中で、それを無視し、しかも支配者階級のために奉仕する仕儀になつている人々が非常に多いことを残念に思います。

皇室民主化を

宮浦　S子

戦後の自由な空気の中で、のびのびとした学生生活を経験された皇太子様と、初の民間出身のお妃様として「何事も殿下とよく御相談の上で……」と語つておられたこの妃殿下は働くということを味わつておられるだろうか。日清製粉の社長の娘として、"お嬢さま"で通つた人。庶民の庶民であることを十分わかつておられるだろうか。

私たち労働者はから騒ぎに心を惑われていけません。庶民だという二字にだまされてはいけないのです。資本家の娘は資本家の娘です。でもお二人は結ばれたのです。美智子さん。

古めかしい皇室に吹きこんださかやかな新風を想わせるこのお二人のご結婚を心から祝福申上げたいと思いますとともに、よくいわれている「皇室の民主化」ということでも、私はこんどのお二人に大きな期待をもつております。

手離して喜べぬ

三川　一女性

四半世紀に一度といわれるご成婚に出合つたことは、いろいろな面で意義深いものがある。マス・コミはこんどのご成婚が、平民より選ばれたことを必要以上に宣伝した観もあるが、私たち労働者としては手ばなしで感激するには、何かもの足りなさを感ずる。

それは天皇制の問題、税金などのことと、大資本と皇室との結びつきが私たちに味方らしいものを感じさせぬためであろうか。しかし、古風な宮廷にあつて、困難なことであつたろうと思われるご成婚が、お互いの愛情により結ばれたといわれたお二人には、時代に相応した一歩前進とみて、その将来を祝福する一人でありたいと思う。

図案を募集

革商連の店の表札

大牟田革商連では、げんざい加盟店が掲げている「革商連の店」の表札を、あらたに作製することにしているが、この機会を利用して組合員から表札の図案を募集しています。いま各店でつかつている表札は夕円型で、すでに皆さんはよくご存知ですが、新しくかんがえられている型は、これより一寸小さめの同じく夕円型です。

○スタイル=夕円型

○革商連のマークはいままでのをつぎい「革商連の店」をわからせる文字を入れる。

○締切り=四月二十日

○送り先=大牟田市有明町一の二商工会議所別館内大牟田革商連

○採用分には薄謝進呈

なお、材質にはとくに赤味がかつたポリエチレンを用意してありますので、配色についてはこれに注意して、効果色がでるように工夫してください。